

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004年3月19日作成)

委員会名	壁式鉄筋コンクリート造性能評価型設計指針作成小委員会	主 査 名：平石久廣
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (壁式構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：平石久廣
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	2001年度：性能評価型設計指針の作成方針の検討 2002年度：硬質地盤上での短周期構造物の応答低減の可能性の検討 性能評価型設計指針の目次及び本文書の骨子の作成 2003年度：指針案の本文書の作成並びに検討 2004年度：指針および解説の原稿の完成	
委員構成 (委員名(所属))	主査 平石久廣(明治大学) 幹事 井上芳生(都市基盤整備公団) 勅使川原正臣(建築研究所) 委員 岡部喜裕(力体工房) 久保哲夫(名古屋工大) 沢井布兆(都市基盤整備公団) 清水泰(東工大付属高) 庄司正弘(構造計画) 白石一郎(日本工大) 田中礼治(東北工大) 中田捷夫(中田研) 西川孝夫(都立大) 信澤宏由(前橋工科大) 松村晃(神奈川大)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	308,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003年4月25日 7名 2003年5月28日 8名 2003年7月30日 6名 2003年9月10日 7名 2003年12月5日 8名 2004年1月28日 7名 2003年3月24日 9名
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 性能評価型設計指針の目次および本文書を作成した。性能評価における基本性能は使用性、損傷性、安全性の3つの性能とした。応答値の算定は等価線形化法を例示として示すことにした。また壁式構造の復元力特性については、弾塑性解析によることを基本としつつも、現状では架構が複雑のため詳細な解析が困難であることから、損傷限界および安全限界時の変形および強度の簡便な算定法を既往の実大実験結果の分析から誘導した。さらに減衰定数についても安全限界時においては10%程度の値となることを明らかにした。これにより安全限界についても線形解析により応答値、限界値の算定が可能になり、性能評価が容易に行えるようになった。 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s5/organ/organ.html
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の予定どおり性能評価型設計指針の目次、本文書を作成した。また簡便な性能評価のための解析法、評価法も開発することが出来た。
その他評価すべき事項	